

A close-up photograph of green leaves with water droplets, serving as the background for the top half of the page.

株式会社ニデック 環境報告書 2009

NIDEK Environmental Report

ISO14001 First certification (JQA) 2000/12/28
ISO14001 Certification (TUV) 2006/12/27

The Art of Eye Care

環境報告書目次

| | |
|----------------------------|-------|
| 環境経営責任者メッセージ | P2 |
| ニデック環境管理推進組織図 | P3 |
| 各工場概要 | P4 |
| 環境方針 | P5 |
| 2009年度環境保全活動の目的・目標と設定主旨 | P6 |
| 2008年度環境保全活動の目標と実績 | P7 |
| 各工場の環境負荷概要 | P8～10 |
| 2008年度環境パフォーマンス | |
| CO2排出量 | P11 |
| 省エネ活動実績 | P12 |
| 廃棄物排出量実績 | P13 |
| 特別管理産業廃棄物排出量実績 | |
| PRTR法対象化学物質 | P14 |
| 環境調和型製品開発 | P15 |
| I社 - / 資源消費量の推移 | |
| I社 - / 資源消費量の推移（電力）（重油） | P16 |
| I社 - / 資源消費量の推移（市水）（最終廃棄物） | P17 |
| トピックス | P18 |
| 防災活動 | P19 |

環境経営責任者メッセージ

当社は、2000年12月にISO14001（環境マネジメントシステム）を取得して以来、環境に優しい事業運営を目指した取り組みを続けてまいりました。

一昨年からは環境保全に一層対処すべく、製品の開発から地球に優しいグリーン製品の提供を最重要課題に位置づけ、有害物質の排除はもとより、廃棄時も循環型社会に貢献できる製品づくりを目指しています。また二酸化炭素の排出量の削減、電力の有効利用を推進すると共に廃棄物の自然界への影響を最小限に抑えるべく、「ゼロエミッション達成」に取り組んでいます。

私共の活動内容を現在および将来的なステークホルダーの方々に紹介することで、環境保全活動の環が社会に拡がることを目指したコミュニケーションを心がけています。

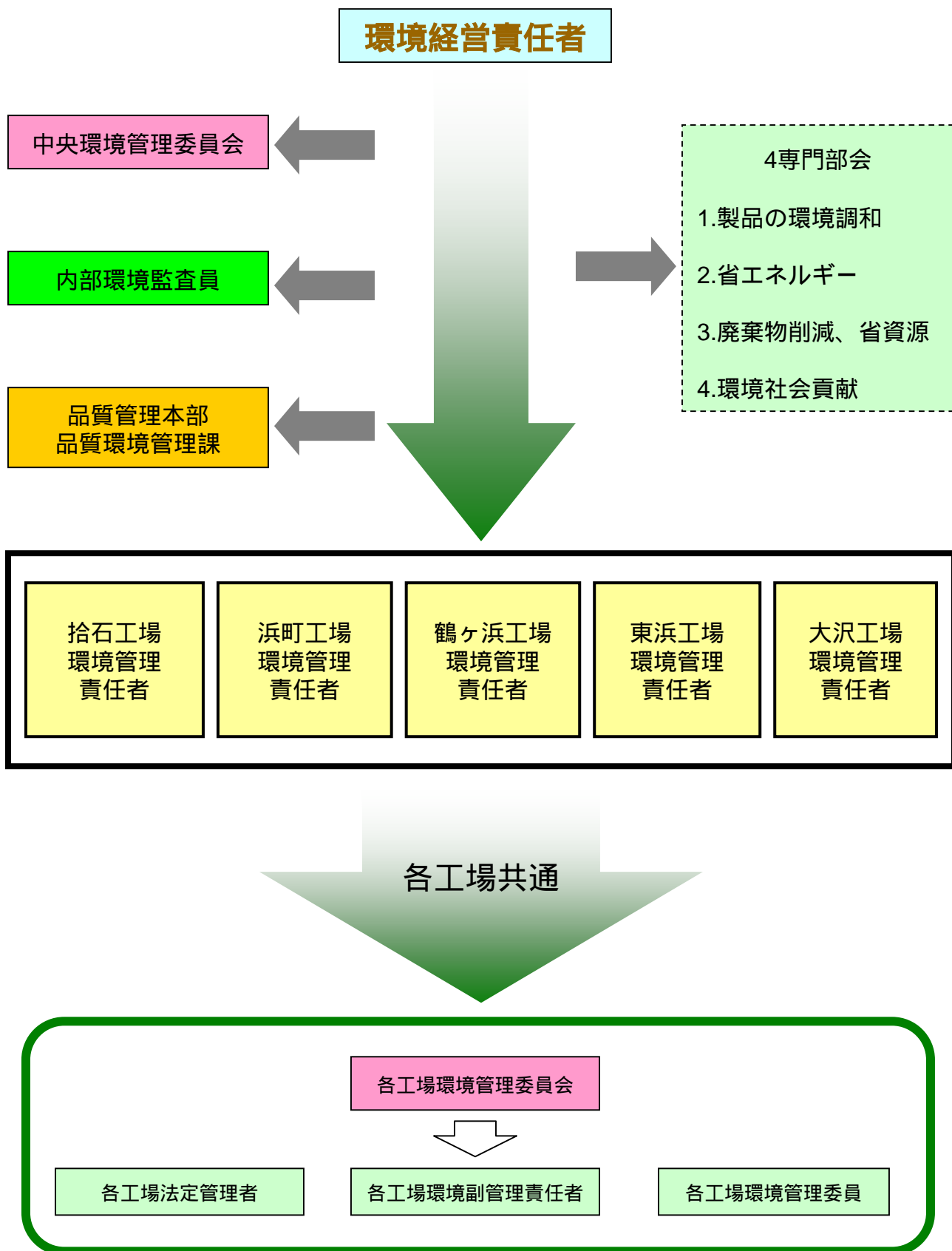
本年度は次の4項目を中心に環境活動を推進していきます。

1. 製品の環境調和：REACH規則への対応をすすめ、医療機器のRoHS指令への対応をすすめていきます。
2. 省エネルギー：原単位電力消費量を設定し、効果ある省エネを推進します。
3. 廃棄物削減・省資源：「ゼロエミッション」達成度向上と最終廃棄物削減を目指して取り組みます。
4. 環境社会貢献：社内の啓蒙、地域社会との協調を高めていきます。



2009年6月
環境経営責任者
常務取締役
コート事業部長兼生産本部長
白井康博

ニデック環境管理推進組織図



株式会社ニデックの各工場概要

本社（拾石工場）の概要



蒲郡市拾石町前浜34番地14

拾石工場環境管理責任者：
総務部長 岩崎忠雄

敷地面積：33,153㎡（10,045坪）
建物（延）：18,164㎡（5,497坪）
従業者数：613名

東浜工場の概要



蒲郡市浜町73番地1

東浜工場環境管理責任者：
コート事業企画室長 柴田芳宏

敷地面積：13,155㎡（3,981坪）
建物（延）：9,207㎡（2,786坪）
従業者数：105名

浜町工場の概要



蒲郡市浜町67番地4

浜町工場環境管理責任者：
医療・眼鏡機器製造部長 松本正和

敷地面積：22,200㎡（6,718坪）
建物（延）：13,724㎡（4,153坪）
従業者数：302名

大沢工場の概要



蒲郡市形原町大沢27番地4

大沢工場環境管理責任者：
コート研究開発部長 川合得義

敷地面積：52,263㎡（15,814坪）
建物（延）：11,032㎡（3,338坪）
従業者数：97名

鶴ヶ浜工場の概要



蒲郡市浜町23番地1

鶴ヶ浜工場環境管理責任者：
コート生産部長 大場徳雄

敷地面積：11,649㎡（3,525坪）
建物（延）：5,408㎡（1,636坪）
従業者数：115名

株式会社ニデック環境方針

当社は、Eye and Health Careの担い手として医療機器等の製造、販売及び、サービス活動を展開している。企業の社会的責任と地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的に行なうものとする。

1. 事業活動に伴う環境側面が環境に与える影響を的確に捉え、環境目的、及び目標を定め、全社員で取組み、環境負荷の低減及び地球温暖化防止を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。環境目的、及び目標は定期的に見直し、必要に応じ改訂する。
2. 環境にかかわる法律、規制、条例を遵守し、利害関係者の意見を尊重する。
3. 事業活動、製品の製造、及びサービスが環境に与える影響を考慮し、特に次の事項について重点的に環境保全活動を推進する。
 - (1) 製品の環境調和 : 主力製品から、指定有害物質の排除を促進すると共に、グリーン調達を推進する。
 - (2) 省エネルギー : エネルギー消費の少ない製品設計、及び生産プロセスの導入等により省エネルギーを推進する。
 - (3) 廃棄物削減・省資源 : 資源の有効利用を図り、「ゼロエミッション」を推進する。
 - (4) 環境社会貢献 : CSRの観点から、環境情報の公開と、地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する。
4. 環境教育、社内広報活動等により全社員の環境方針の理解及び環境保全に対する意識の向上を図る。また、関連会社に対し理解と協力を求める。

この環境方針は、社外からの要求に応じ公開する。

2009年6月1日
株式会社 ニデック
環境経営責任者 白井康博

2009年度環境保全活動の目的・目標と設定主旨

眼科系（医療・眼鏡）機器のトップメーカーの名に恥じない環境保全活動を展開するべく、当社環境活動の見直しを行い、初期活動のいわゆる「紙・ゴミ・電気」から事業活動における本来業務の中で、環境保全活動を展開するように改善を行いました。

基本的には、環境調和型製品の開発・製造・販売を行うことを中心に、省エネルギー、廃棄物による環境汚染の予防、資源の節約と循環資源化の促進、そして、社会への貢献を目的として、情報の公開を進めることと致しました。

2009年度における設定は下表の通りとなっており、日々、活動を推進しています。

| カテゴリー | 2009年度 環境目的 | 2009年度 目標 | 主旨と 活動内容 |
|-------------------|---|---|---|
| 製品の 環境調和 | 環境法規制のレビュー、 必要な措置の実施 | 環境法規制のレビュー、 必要な措置の実施 | REACH規則への対応をすすめる 医療機器のRoHS指令への対応をすすめる |
| 省エネルギー | 原単位電力消費量削減2009年度 度迄に2005年度比、4%削減 | 各サイト設定原単位電力 消費量削減2005年度比、 4%削減 | 原単位は、昨年からの延長 上で設定し効果ある省エネ を推進します また平成22年4月から施行 される省エネ法改正のため の重要な準備年と位置づけ て活動を行います |
| 廃棄物 削減・ 省資源 | ゼロエミッション達成度向上 2009年度累計再資源化率 99%以上 2009年度月別再資源化率 99%以上を10ヶ月以上達成 | 廃棄物の再資源化促進 累計再資源化率99%以上 月別再資源化率99%以上 を10ヶ月以上達成 | 「ゼロエミッション」達成度向 上と最終廃棄物削減を目指 し取り組む 循環型社会形成を目指して、 リサイクルの質の向上に取り 組む |
| 環境 社会貢献 | 環境社会報告書の作成とCSR レポートの研究 2009年度までに環境社会 報告書の作成・公開 社会貢献活動の実施テーマの 選定と実施 | 環境社会報告書の作成と CSRレポートの研究 社会貢献活動のテーマ の選定と実施 | 社内の啓蒙、地域社会との 協調を高めて行く 限られた原資の中で効率良 く活動する |

2008年度環境保全活動の目標と実績

| カテゴリー | 2008年度 目標 | 主旨と 活動内容 | 活動実績 |
|-------------------|--|---|---|
| 製品の 環境調和 | 本来業務活動での主力 製品からRoHS規制物 質の排除推進 | 当該対応作業は、開発、購 買等、担当部署が、その本 来業務の中で推進し結果を 出していくものなので、業 務ラインで展開している品 質システムの中で活動を推 進する（EMSは委員会活動 が主体） | 購買管理規定の見直しを実施 医療・眼鏡製品のRoHS対応 状況を確認 コート製品は取引先からの要 望に対し適合データを提供 WEEE指令で要求される分解 手順書の対応状況を確認 その他関連法規制をレビュー 必要な対応を実施 |
| 省エネル ギー | 各サイト設定原単位電 力消費量削減2005年度 比,原単位3%削減 | 工場毎の特性に基づき、原 単位を設定し電力消費量の 削減と省エネルギーを推進 する | 電力消費量は2005年度に比べ 6,216,051kWh減少 (CO2換算：3,450 t・CO2) コート3工場を中心としたエコ プロ活動が定着した 達成度は、 拾石工場：82.5%、 浜町工場：103%、 鶴ヶ浜工場：121.7%、 東浜工場：123.5%、 大沢工場：81.0% |
| 廃棄物 削減・ 省資源 | 廃棄物の再資源化促進 再資源化率99%以上 | 廃棄物による環境影響を最 小限に食い止めるために、 分別廃棄の徹底を行い、こ れをもとに、廃棄物の再資 源化を促進する | 上期の再資源化率は99%未満 であったが、下期は一般可燃 物とガラス類の再資源化を実 施し毎月99%以上となった。 3月度再資源化率：99.6% (全体) 拾石工場：99.5%、 研究所：95.5%、 浜町工場：99.3%、 鶴ヶ浜工場：99.9%、 東浜工場：99.4%、 大沢工場：99.3% |
| 環境 社会貢献 | 環境社会報告書作成・ 公開と環境社会活動支 援 化学物質の管理強化と 削減 PRTR対象物質を2005 年度比50%削減 | 社内向けに発行している環 境報告書をレベルアップし て、公開することで、地域 社会との協調を一層高めて 行くと共に、環境を通して の社会貢献を推進する 化学物質は管理と削減を一 層推進する | 環境報告書の改訂 エコキャップ運動を本社（拾 石工場）でトライアル実施 PRTR物質：2005年度比73.2% |

各工場の環境負荷概要

本社（拾石工場）

拾石工場には、ニデックの本社工場として、本部機能を中心に、スタッフ部門、開発部門、製造部門、営業部門、サービス部門が業務を展開しています。

(2008/4 ~ 2009/3)

資源・エネルギー

電力

3,114,637kWh

重油

15,080L

市水

17,717m³

・図面・製品
・サービス

OUTPUT

事業活動

本社機能
製品開発部門
製造部門
販売部門
サービス部門

INPUT

OUTPUT

大気

CO2排出量
(電力・重油)

1,769tCO2

廃棄物

再資源化廃棄物

121,060kg

最終廃棄物

2,872kg

工程排水・雑排水

下水道

14.173m³

研究所

研究所は、生物工学に関する各種の試験を行う施設として、運営しています。

(2008/4 ~ 2009/3)

資源・エネルギー

電力

740,754kWh

重油

241,200L

市水

5,915m³

・試験結果

OUTPUT

事業活動

試験部門

INPUT

OUTPUT

大気

CO2排出量
(電力・重油)

1,065tCO2

廃棄物

再資源化廃棄物

5,761kg

最終廃棄物

93kg

工程排水・雑排水

下水道

5,856m³

各工場の環境負荷概要

浜町工場

浜町工場は、組立と物流の専門工場として操業しています。

(2008/4 ~ 2009/3)

資源・エネルギー

電力

856,405kWh

重油

12,500L

市水

6,261m³

INPUT

製品

OUTPUT

事業活動

製造部門
物流部門

OUTPUT

大気

CO2排出量
(電力・重油)

509tCO₂

廃棄物

再資源化廃棄物

65,606kg

最終廃棄物

871kg

工程排水・雑排水

公共用水域

5,009m³

鶴ヶ浜工場

鶴ヶ浜工場は、眼鏡レンズを主体に、コーティング専門工場として操業しています。設置している装置は、連続式及びバッチ式の蒸着機です。

(2008/4 ~ 2009/3)

資源・エネルギー

電力

5,556,480kWh

重油

0L

市水

39,744m³

INPUT

・製品 ・部品

OUTPUT

事業活動

コーティング部門
研磨部門

OUTPUT

大気

CO2排出量
(電力・重油)

3,084tCO₂

廃棄物

再資源化廃棄物

211,500kg

最終廃棄物

720kg

工程排水・雑排水

公共用水域

39,347m³

各工場の環境負荷概要

東浜工場

東浜工場は、光学フィルターのコーティング専門工場として操業しています。
設置している装置は、連続式及びバッチ式の蒸着機です。

(2008/4 ~ 2009/3)

資源・エネルギー

電力

9,259,818kWh

重油

236L

市水

17,067m³

製品

OUTPUT

事業活動

コーティング部門

INPUT

OUTPUT

大気

CO2排出量
(電力・重油)

5,140tCO2

廃棄物

再資源化廃棄物

112,051kg

最終廃棄物

1,179kg

工程排水・雑排水

下水道

16,896m³

大沢工場

大沢工場は、光学フィルターの、最新鋭コーティング専門工場として操業しています。
設置している装置は、最新鋭の連続式蒸着機です。

(2008/4 ~ 2009/3)

資源・エネルギー

電力

9,112,058kWh

重油

755L

市水

5,344m³

製品

OUTPUT

事業活動

コーティング部門

INPUT

OUTPUT

大気

CO2排出量
(電力・重油)

5,059tCO2

廃棄物

再資源化廃棄物

39,701kg

最終廃棄物

796kg

工程排水・雑排水

公共用水域

3,741m³

2008年度当社のCO2排出量（電力及び燃料）

各項目毎の排出量

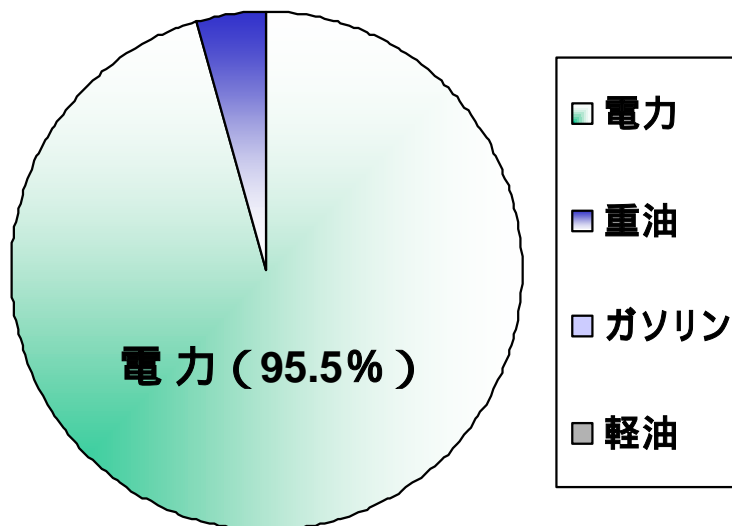
| | |
|----------|--------------|
| (1) 電力 | : 15,895tCO2 |
| (2) A重油 | : 731tCO2 |
| (3) ガソリン | : 20tCO2 |
| (4) 軽油 | : 2tCO2 |

総計 = 16,648tCO2

前年比 : 83.2%

[注 : 発電用の重油は、発電量（買電で計上）で計上2007/4から2008/3実績]

「CO2換算係数による」



[日本全体のCO2排出量と削減目標]
2000年度実績 : 11億6000万 t
2010年度削減目標 : 1990年度比と同水準
(1990年度 = 10億5300万 tが目標値)

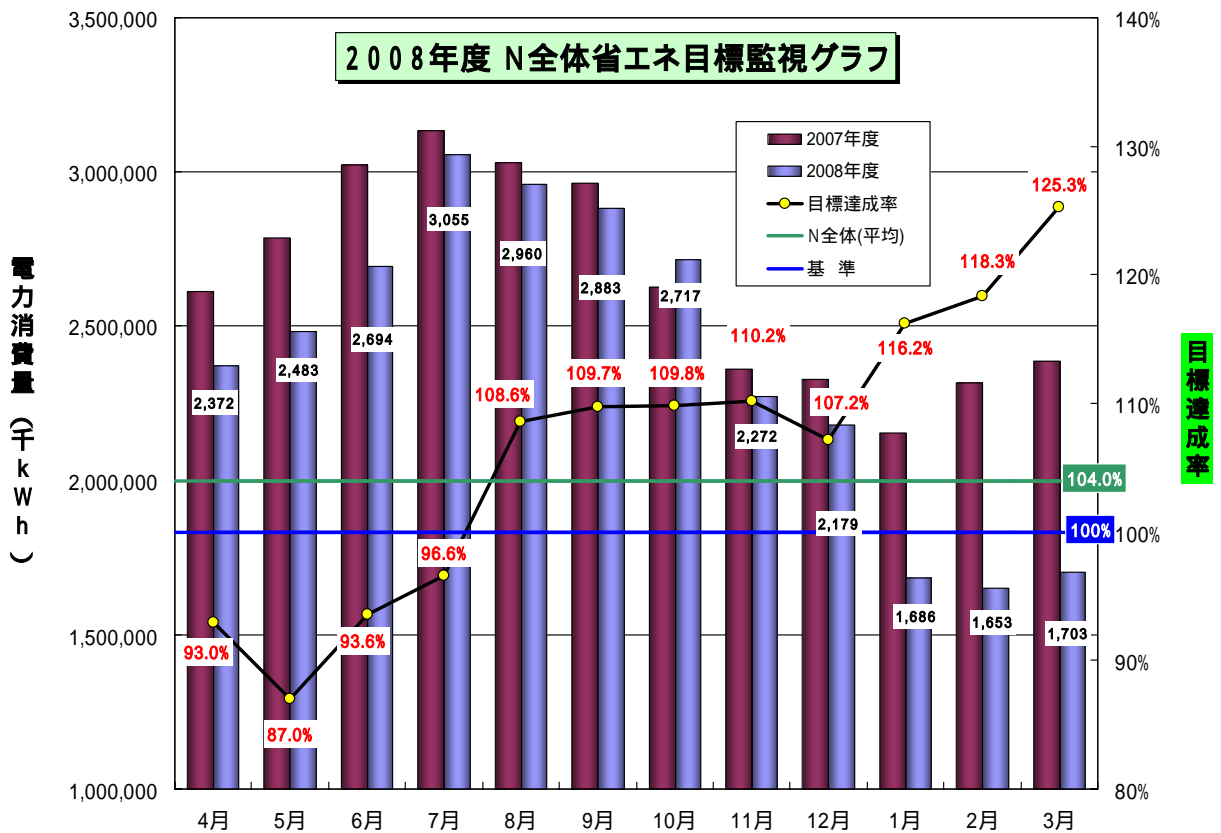
2008年度省エネルギー活動実績

当社の省エネルギー活動は、電力消費の原単位改善にて「各サイト設定原単位電力消費量削減」に取り組んできました。達成度及び各工場（サイト）の設定は以下の通りです。

目標に対する達成度：96.8%

拾石、浜町工場：一人当りの電力消費量削減

鶴ヶ浜、東浜、大沢工場：蒸着1回当りの電力消費量削減



工場別目標達成度

| 拾石工場 | 研究所 | 浜町工場 | 鶴ヶ浜工場 | 東浜工場 | 大沢工場 |
|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 82.5% | 102.7% | 103.0% | 121.7% | 123.5% | 81.0% |

2008年度廃棄物排出量実績

廃棄物削減活動は、ゼロエミッション達成に向け、再資源化率の向上を目指して活動を展開して来ました。

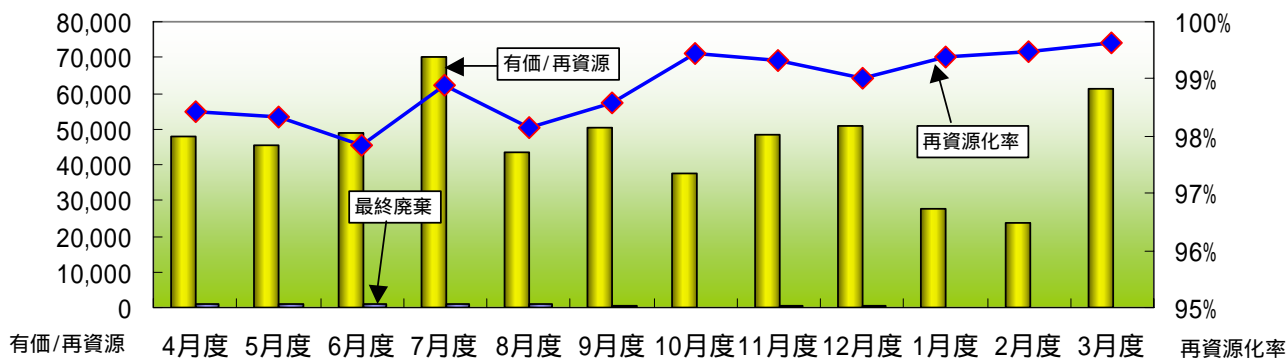
2008年度は目標値を達成することができました。これは、分別区分の見直し、再資源化促進の取組みによる改善が成果に繋がった為です。



目標値 (99%以上) : 実績値99.6% (3月)

2008年度廃棄物、再資源化率の月別推移

| | 4月度 | 5月度 | 6月度 | 7月度 | 8月度 | 9月度 | 10月度 | 11月度 | 12月度 | 1月度 | 2月度 | 3月度 | 合計 | 比率 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
| 有価/再資 | 47,791 | 45,608 | 48,869 | 70,250 | 43,543 | 50,295 | 37,514 | 48,558 | 50,722 | 27,680 | 23,481 | 61,369 | 555,680 | 98.8% |
| 最終廃棄 | 765 | 766 | 1,076 | 800 | 827 | 717 | 212 | 329 | 502 | 175 | 126 | 234 | 6,529 | 1.2% |
| 合計 | 48,556 | 46,374 | 49,945 | 71,050 | 44,370 | 51,012 | 37,726 | 48,887 | 51,224 | 27,855 | 23,607 | 61,603 | 562,209 | 100.0% |
| 再資源化率 | 98.4% | 98.3% | 97.8% | 98.9% | 98.1% | 98.6% | 99.4% | 99.3% | 99.0% | 99.4% | 99.5% | 99.6% | 98.8% | |



2008年度特別管理産業廃棄物排出量実績

特別管理産業廃棄物は、鶴ヶ浜工場がもっとも多量に排出している為、その管理は重点的に行っています。

当該廃棄物は、1事業所にて年間50トン以上排出すると、多量排出事業所として行政への報告が必要になります。

総排出量は、前年の約60トンから、約105トンと増加しましたが、この全量を再資源化処理を行うように改善できました。

特別管理産業廃棄物の工場別排出量

| 工場 | 拾石 | 浜町 | 鶴ヶ浜 | 東浜 | 大沢 | 研究所 | 計 | 前年度計 | 前年比 |
|----------|--------|----|--------|-------|----|-------|---------|--------|--------|
| 排出量 (kg) | 17,394 | 54 | 72,132 | 8,904 | 0 | 6,394 | 104,878 | 60,037 | 174.7% |

2008年度PRTR法対象化学物質

PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律）に基づく第一種指定化学物質の2008年度の各工場での使用量は下表の通りとなりました。

PRTR法届出対象化学物質取扱量（第一種指定化学物質）

| 工場 | 拾石 | 浜町 | 鶴ヶ浜 | 東浜 | 大沢 | 研究所 | 計 | 前年度計 | 前年比 |
|----------|----|----|-------|-----|----|-----|-------|-------|-------|
| 排出量 (kg) | 62 | 24 | 4,987 | 333 | 0 | 32 | 5,438 | 6,756 | 80.5% |

環境調和型製品開発

- EU規制（RoHS & WEEE）適応、及び中国版RoHS適応推進
- 主な製品を下記に紹介します。

EUのRoHS及びWEEE規制対応活動は、プロジェクトチームと協力し、該当する製品について、グリーン調達を行い、規制適応が達成できました。

Lex-1000

レンズ加工器



RT-5100

自動検眼装置



Lfu 220

加工機用 遠心分離型ろ過装置



独自の最新鋭技術で加工カスと水を分離する“ハイブリッドシステム”により、快適な使い勝手、使用水量の削減、コンパクト設計を実現しました。

医療機器に関しては、新たな目標設定を行い「環境調和型製品開発」の下に改善活動を進めています。主な製品を紹介します。

NT-530

非接触眼圧計



TONOREF®II

3つの主要な測定機能を一つに搭載



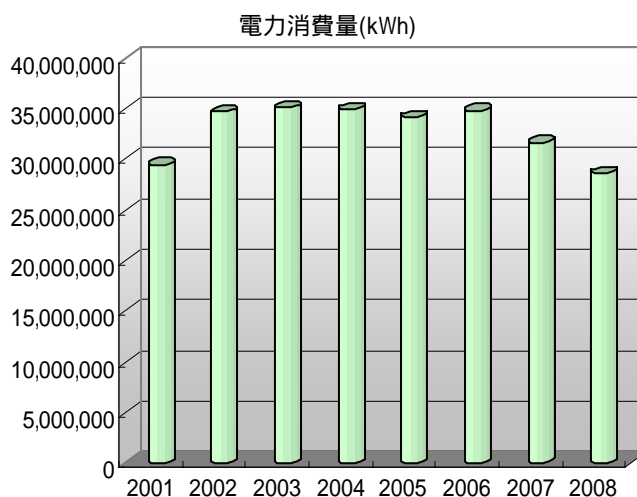
エネルギー / 資源消費量の推移

当社のエネルギーの中心は、電力ですので電力消費量の管理を中心に、発電機及び暖房用ボイラーに使用する重油、そして市水、の使用量を管理してきています。

電力消費量の推移

会社の成長と共に、電力消費量も同様に増加してきましたが2002年を境に、省エネ活動の成果が現れてきて、会社は成長しても、電力消費量は、横這いから減少の状況が現れてきています。

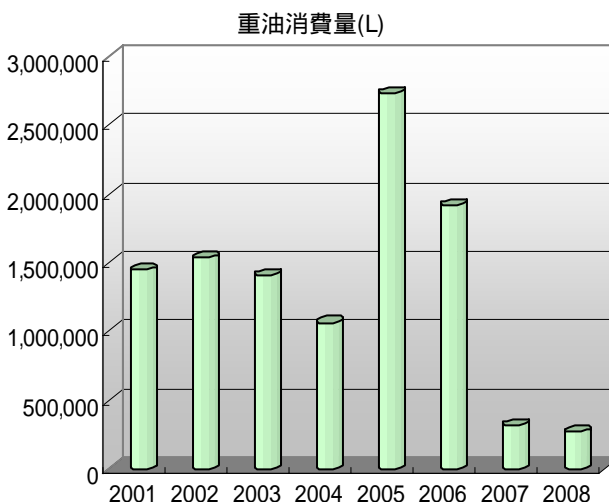
| 年度 | 消費量(kWh) |
|------|------------|
| 2001 | 29,481,133 |
| 2002 | 34,672,181 |
| 2003 | 35,037,623 |
| 2004 | 34,927,885 |
| 2005 | 34,124,154 |
| 2006 | 34,810,429 |
| 2007 | 31,678,184 |
| 2008 | 28,640,152 |



重油消費量の推移

2006年度は、暖房用のボイラーから、効率の高いヒートポンプ式エアコンに切替え、更に自家発電機の運転を、常用運転から、ピークカット運転に切替えることで2005年度以前に比べ重油消費量の大幅な削減を達成することが出来ました。これはCO2の削減にも繋がりました。

| 年度 | 消費量(L) |
|------|-----------|
| 2001 | 1,445,518 |
| 2002 | 1,534,492 |
| 2003 | 1,407,015 |
| 2004 | 1,064,416 |
| 2005 | 2,731,606 |
| 2006 | 1,917,342 |
| 2007 | 316,647 |
| 2008 | 269,771 |



エネルギー / 資源消費量の推移

市水の消費量の推移

市水の使用量は、2002年をピークに節約の効果が出てきています。これは、当社コート事業部における洗浄工程での、効率向上の成果がでてきたものです。2006年度に、栄工場を閉鎖（鶴ヶ浜工場への移設）しましたが、研究所を新たに認証取得しましたので総量は増加しました。

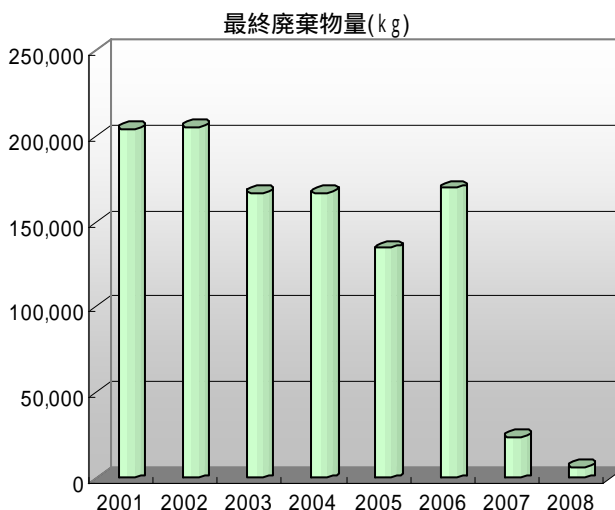
| 年度 | 消費量 (m ³) |
|------|-----------------------|
| 2001 | 104,913 |
| 2002 | 111,908 |
| 2003 | 107,870 |
| 2004 | 101,148 |
| 2005 | 98,417 |
| 2006 | 106,672 |
| 2007 | 102,127 |
| 2008 | 92,048 |



最終廃棄物の推移

当社は、2006年度～2008年度の3ヶ年計画にて「ゼロエミッション」達成を目標に掲げて全員で取り組んできました。分別廃棄を徹底して行い、それを基に排出物の再資源化を進めることで着実に成果が上がってきています。

| 年度 | 排出量 (kg) |
|------|----------|
| 2001 | 204,546 |
| 2002 | 205,744 |
| 2003 | 167,316 |
| 2004 | 167,112 |
| 2005 | 134,914 |
| 2006 | 169,852 |
| 2007 | 24,119 |
| 2008 | 6,530 |



特別管理産業廃棄物を含む

トピックス

スペシャルオリンピックス日本ヘルシー・アスリート®・プログラム（HAP）への参加

知的発達障害のある方たちが参加するスポーツ大会である「2008年第4回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・山形」で実施されたHAP(健診プログラム)に、目の検査機器、眼鏡レンズ加工機器などを無償貸与するとともに、社員がボランティアとして会場運営に参加しました。



東浜工場 エネルギー調査で高評価

10月7日（火）に、（財）省エネルギーセンターによる省エネ状況の調査が行なわれ、東浜工場が100点満点中、95.3点という高い評価点を取得しました。

この調査は、省エネルギー法に基づいて、本年度の省エネルギー管理指定工場である東浜工場で行われたものです。東浜工場で行なわれているエコプロジェクトの成果が、高く評価されたと言えます。



* 東浜工場の取り組み事例

スプリンクラー工場設備に水をかけて冷やすことにより、電力使用量を抑制

浜町工場 太陽光発電システム導入

システムの能力

太陽電池の容量 50kW

1年間に発電できる電力量 55,597kWh

火力発電と比較して下記の資源を節約し環境に貢献する事ができます。

1年間に12,620 の石油の消費を減らします。（200 のドラム缶に換算して約63本分）

1年間に17,485kgの二酸化炭素の排出を減らします。（乗用車が地球約2周分、距離にして74,405kmを走行した場合に排出する二酸化炭素に相当します。）



防災活動

当社は毎年防災訓練を実施して、全社員の防災意識の向上と安全対策を進めています。

以下に、当該訓練風景をご紹介します。



緊急地震速報による避難行動、被災者救出訓練、消火訓練です。



防災訓練の一環として、公共機関より「起震車」をお借りしての、地震体験訓練風景です。



火災発生時の煙の状態を体験する訓練風景です。

防災訓練の一環としての、事故緊急事態対応訓練で、重油漏洩に備えての土嚢配置訓練風景です。



重油漏洩時等の緊急時に、側溝の排水口を即時に遮断する為の、社員による改善対策です。



株式会社ニデック
問合せ先:

TEL: 0533-67-6753 (広報課)

FAX: 0533-67-6610

URL <http://www.nidek.co.jp>